

勢多橋勢多又作瀨田瀨田和訓與勢多音似故通用

望指長橋到瀨田青龍臥浪素商天秀卿用力異周處却爲蛟蛇射馬蛟

〔近世畸人傳〕池大雅附妻玉瀾

大雅池氏略○中漢法の山水を畫はじめたるころ扇に圖して自携へ近江美濃尾張の國々に售ん

とす人多怪て買者なし於是むなく京へ歸らんとて瀨田の橋をわたる時其扇を出しことごとく湖水に投じて曰是をもて龍王を祭ると後いくほどなく書畫の名海内に擅なり

〔東行別記〕瀨田橋

此橋をわたればいまだなかばならぬにこしかたもわするばかりなりかの魯班が雲のかけはしこ、にうつりけるかとあやしむ

わすれては雲ゐにのぼる心地して波はかすみの瀨田の長はし

出淵未上空龍臥急流中無數通人馬何慚雲雨功

〔伊勢路の記〕勢田の橋にて

たび人のゆき、をしげみひく駒のあの音しきるせたの長はし

〔都紀行〕六日○文久四年正月、中略瀨田に至れば建部明神の鳥居の邊りに龍神の社俵藤太秀郷のやし

ろといふあり瀨田の橋は長九十六間また小橋は三十六間といふ左りには石山寺の眺望うしろには三上山右に比良の峯前には比叡山膳所の城の見へ渡す景色は言葉に盡しがたし

〔夫木和歌抄〕二十一「永久四年九月雲居寺後番歌合霧はし橋江 覺盛法師

旅人も立河霧にをとばかりき、わたる哉とゞろきの橋

同年百首不見書戀

源兼昌

わざも子にあふみなりせばさりとともとふみもみてましとゞろきのはし